

北九州市基本構想

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を体現する

グローバル挑戦都市・北九州市

ひとの数だけ、スポットライトがある。

だれもが主人公になって、イキイキと

自分の人生をもっと好きになって進んでいく。

一人ひとりに宿る力を、

もっと支え、挑戦を後押しできる都市へ。

積み重ねてきた歴史を、

脈々と継承し、新しい価値を生みだせる未来へ。

多様な個性がまざりあい、つながりあうからこそ

生みだされる価値は、日本のみならず世界へと大きく広がり、

だれもが豊かで安らげる未来をつくっていく。

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を体現するグローバル挑戦都市へ。

さあ、愛さずにはいられない未来を、北九州市から。

目指す都市像に込めた思い

「北九州市が目指す都市像」については、多くの市民、有識者などからの意見を踏まえ、次の思いで取りまとめています。

【つながりと情熱と技術】

北九州市は、市民一人ひとりがその持てる力を最大限に発揮し、未来へ歩みを進める上で、これからも大切にすべき北九州市の強みや誇りを、これまでのまちの歴史や都市の DNA（特性）、市民の気質などから、人と人との「つながり」、熱い「情熱」、ものづくりや環境の「技術」力の 3 つに凝縮しました。

【一歩先の価値観】

北九州市は、これまで「つながりと情熱と技術」で幾多の困難を乗り越え、その先にある「一歩先の価値観」として、「利他の精神」、「能力開花」、「持続可能」を体現してきました。

これからも少子高齢化・人口減少などの社会課題に挑戦し、克服していくことにより、市民が幸せを感じ、誇りを持ち続けることができる、新たな「一歩先の価値観」を体現できるまちであり続けます。

【グローバル挑戦都市】

北九州市は、官営八幡製鐵所をはじめ、世界に挑戦する企業を生んできたまち、また、それを支える中小企業や人材を輩出してきた輝かしい歴史のあるまち、そして、環境先進都市として世界をけん引してきたまちです。

これからも世界に先駆けて新たなことに挑戦し続けるという北九州市の歴史や DNA（特性）を守り、引き継ぎ、未来へ歩みを進めていきます。

目 次

第1章 北九州市のこれまでの挑戦	4～6
1 北九州市の歩みと個性	4
2 北九州市が体現してきた「一步先の価値観」	6
第2章 目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略	7～10
1 「成長と幸福の好循環」の実現へ	7
2 3つの重点戦略	9～10
(1)「稼げるまち」の実現	9
(2)「彩りあるまち」の実現	9
(3)「安らぐまち」の実現	10

第1章 北九州市のこれまでの挑戦

1 北九州市の歩みと個性

(1) 五市合併前

北九州地域は、本州と九州各地との結節点という地理的な特性から、城下町の小倉をはじめ、大里、黒崎、木屋瀬などが宿場町として、江戸時代から栄えてきました。

大きな転換点となったのは、日本の産業の近代化の礎となった官営八幡製鐵所の創業でした。筑豊の石炭に加えて、アジアに近く、災害リスクの低い強じんな土地や、豊富な水源を有していること、そして何より次世代の産業をつくるという地元の人々の情熱が、明治政府の一大プロジェクトの立地の決め手となりました。

(2) 五市合併による多彩な歴史や文化

昭和38年(1963年)、門司、小倉、若松、八幡、戸畑、それぞれ色合いが違う五市が対等合併し、九州初の「百万都市」、「政令指定都市」として、北九州市が誕生しました。

- ・陸上と海上運輸の集散地として栄えた九州の玄関口・国際貿易港「門司市」
- ・城下町時代からの商業・行政などの集積地で広域的な拠点機能を担った「小倉市」
- ・国内有数の炭鉱地帯・筑豊で産出される石炭の積出港として栄えた「若松市」
- ・日本の産業革命に貢献した官営八幡製鐵所創業の地「八幡市」
- ・工業人材教育へ向けて私立明治専門学校(現九州工業大学)が創設された「戸畑市」

歴史や文化、祭り、食、暮らしなどの旧五市の特色は、「7区7色の個性」として北九州市の個性となりました。

(3) 「ものづくり」のまち

官営八幡製鐵所の創業により幕を開けた「ものづくり」のまちとしての北九州市は、重化学工業を中心とする国内有数の工業地帯、また、日本の高度経済成長をけん引する地として、急速に発展しました。

この勢いが求心力となり、革新的な技術で世界と戦う、進取の気鋭にあふれる起業家が次々と現れ、日本を代表する、株式会社安川電機やTOTO株式会社などの企業が育っていきました。

(4) 包摂性など市民の個性

「ものづくり」のまちとして、国内外から情熱や個性ある人々や企業が集まる中で、人情と包摂性にあふれる北九州市民は、その多様性を受け入れ、チャレンジを応援してきました。

また、外から取り入れた異質な文化と地域の文化が掛け合わさることで、人々の暮らしは豊かで活気のあるものになっていきました。

(5) 市民力で実現した「公害の克服」

日本の高度経済成長をけん引してきた工業地帯として発展する一方で、激甚な公害も経験しました。

「七色の煙」や「死の海」と評された環境汚染に対し、「子どもの健康を守りたい」という強い思いを抱く、婦人会が立ち上がり、それを契機に企業と行政・研究機関も一体となって公害を克服しました。

こうした「市民力」や「産学官民連携の力」は、現在のまちづくりにも引き継がれています。

(6) 日本をけん引する「環境産業の推進」

産学官民が総力を挙げて公害克服に取り組んだ結果、環境改善を果たしただけでなく、その過程で、環境に配慮しつつ、生産性も向上させる新たな技術を開発しました。

さらに、廃棄物処理と処分場の不足が日本全体で大きな社会課題になる中、廃棄物を原料として、再び資源に生まれ変わらせるリサイクル産業を創出し、「環境と経済」の両立を図ることにも成功しました。

リサイクル産業が集積する北九州エコタウンは、日本最大級のエコタウンとして国内外から高く評価されています。

(7) 「環境先進都市」から「SDGs 未来都市」へ

公害克服やリサイクル分野などでの海外技術協力や、上下水道インフラの輸出などを通じて、アジアを中心に環境問題の解決にも大きな貢献を果たしてきました。

公害克服の歴史や、環境産業、国際技術協力などの実績の下、「環境先進都市」として、国内外で高く評価された北九州市は、その後、「SDGs 未来都市」として、環境面のみならず、経済面や社会面を含めた統合的な取組においても評価されています。

(8) 名実とも「安全なまち」への転換

まちを悩ませていた暴力団の影についても、市民・企業・警察・行政が一体となって、暴力追放運動や防犯パトロールに強い決意で取り組んだ結果、暴力団はほぼ壊滅状態となり、刑法犯認知件数は大幅に減少しました。「怖いまち」のイメージは払拭され、北九州市は「日本トップクラスの安全なまち」へ生まれ変わろうとしています。

2 北九州市が体現してきた「一歩先の価値観」

北九州市は、明治の産業革命や高度経済成長をけん引するとともに、資源循環型社会の構築や SDGs 未来都市の推進など、時代の最前線で常に新しいことに挑戦してきました。

また、都市の成長の一方で、その副産物ともいえる公害や廃棄物問題など、全国に先駆けて様々な社会課題にも直面してきました。

そして、北九州市は、様々な社会課題に直面するたびに、人と人との「つながり」や、困難を乗り越えようとする人々の「情熱」、ものづくりのまちを支える高度な「技術」によって、幾多の困難を乗り越えて、まちの発展につなげてきました。

こうした過程の中で、困難を乗り越えた先にある「一歩先の価値観」を、日本や世界に先駆けて体現してきたまちです。

これまで、北九州市が体現してきた「一歩先の価値観」とは、

一つ目に「利他の精神」。

北九州市は、古くから国内外から人や企業を受け入れ、その挑戦を後押ししてきました。また、都市でありながら地域の強いきずなを生かして、地域福祉のネットワークを整備し、高齢者などを地域で見守り、ふれあい、支え合ってきました。

日本全国で地域における共助や互助の精神が薄れる中であっても、市民が相互に包摂性を持ち、それぞれが望む生活や夢の実現に向けて支え合ってきました。

二つ目に「能力開花」。

北九州市は、激甚な公害に直面したとき、産学官民が一丸となって、大きな力を発揮して課題を克服しました。また、廃棄物を原料として再び資源に生まれ変わらせるリサイクル産業の創出や環境配慮型製品の開発など、新たな社会的・経済的な価値も創出してきました。

さらに、年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、その持てる力と意欲を最大限に発揮できるよう、まち全体で応援することにより、社会の構成員である一人ひとりが、様々な分野において活躍してきたほか、地域における支え合いのネットワークの構築などが展開されてきました。

このように、このまちに関わる人々や企業が、ポテンシャルを最大限に発揮することで、このまちの活力を維持・充実してきました。

そして、三つ目に「持続可能」。

北九州市は、平成 30 年（2018 年）に国内最初の「SDGs 未来都市」に選定され、SDGs を原動力に企業の成長と社会課題の解決に取り組みました。また、2050 年までにゼロカーボンシティを目指すことを目標に掲げ、日本や世界が抱える課題を克服し、次の世代に豊かなまちを引き継ぐための挑戦を続けています。

現在、北九州市は、少子高齢化・人口減少や気候変動問題などの社会課題に直面しています。こうした地球規模の課題解決に向けて、これからも「つながり」と「情熱」、「技術」で果敢に挑戦し、時代や環境の変化の中で、市民が幸せを感じ、誇りを持ち続けることができる、自分らしく新たな「一歩先の価値観」を見だし、体現できるまちであり続けます。

第2章 目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略

1 「成長と幸福の好循環」の実現へ

市民が日常生活を営む上で重要なのは、尊厳を守られ、安全・安心に暮らし続けることができ、幸福を感じられることです。

北九州市は、オイルショック後の鉄冷え、それが発端となった製造業の合理化による人員削減、その後の円高や貿易不均衡是正のための製造業の海外移転などにより、北九州市の経済活動は弱体化しました。

さらに、北九州市は、かつて工業都市と支店経済都市としての両面を持ち合わせる九州最大の拠点都市でしたが、陸路から空路にシフトする時代への対応が遅れ、企業・事業所の市外転出が相次ぎ、次第に人口が減り始め、徐々にまちは元気を失っていきました。

しかしながら今、暴力追放運動による劇的な治安の回復や北九州空港の滑走路 3,000m化、風力発電関連産業の総合拠点化など、まちが大きく変化しようとしており、飛躍の時を迎えようとしています。

こうしたタイミングを捉え、市民の誰もが望む安全・安心で幸福を実感できるまちづくりに向けて、まずは「稼げるまち」の実現に取り組み、都市の経済力を高めていきます。

具体的には、まず、北九州市が有する歴史や文化、自然、食、人、産業など、様々な魅力に関する情報を全国の人たちに届け、恵まれた陸・海・空のネットワークを活用して北九州市を訪れて、触れていただき、関心を高め、体験していただく取組を強化します。

また、ものづくりや環境分野の技術を生かした未来産業の集積や、市内企業の生産性向上、スタートアップの創出など、企業活動の進出や拡大を通じて、誰もが活躍できるまちの実現にも取り組みます。

「稼げるまち」の実現により、収入が増えることで、消費意欲が喚起され、さらに、新たなことに挑戦する人たちが集まります。こうした流れによって、まちに活力やにぎわいが生まれ、物心両面での多様なライフスタイルへのニーズが高まっていきます。

こうした多様なニーズの高まりに応えるため、民間の投資や開発などを喚起し、魅力的な街並みや住環境、教育環境、文化芸術・スポーツに接する環境、観光などのコンテンツを充実させ、年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、自分らしさを大切にできる、多様な選択肢がある「彩りあるまち」を実現していきます。

「彩りあるまち」の実現により、人々は自分らしさやそれぞれが望む生活を楽しむことができ、安らぎを感じることができます。

こうした安らぎをさらに高めていくため、「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現による“成長の果実”によって、生活の基盤である安全・安心な暮らしを確保・充実するとともに、人々がお互いを尊重し、支え合う包摂的で心豊かに暮らすことができる「安らぐまち」の実現につなげていきます。

安らぐことができるから、安心してまた未来に向かって進んでいくことができます。

このようなまちは、その魅力によって、市外からもさらに人が集まり、集まった人々が定着するまちにつながります。

こうして、少子高齢化・人口減少などの社会課題に直面している中においても、まちも人も潤っていく「まちの成長」と「市民の幸福」の好循環をつくっていきます。

この「成長と幸福の好循環」による「経済成長と社会課題解決の両立」のロールモデル（＝課題解決の道筋）として日本やアジア、そして世界に示していくことで、我が国や世界の未来に貢献することを目指し、それにより、日本国内や世界における北九州市の評価を高め、国内外から人や企業、投資を呼び込むとともに、北九州市民のシビックプライドの向上にもつなげていきます。

こうして、「つながりと情熱と技術で、『一步先の価値観』を体現するグローバル挑戦都市・北九州市」を目指していきます。



2 3つの重点戦略

(1)「稼げるまち」の実現

北九州市の市内総生産額や雇用者報酬などの水準や増加率は、政令市の中でも下位に位置しており、経済の停滞が続く中、まちの活力を取り戻すため、まずは「経済成長」に取り組めます。

このため、陸・海・空のネットワークや豊富な水資源、エネルギーといったポテンシャルを最大限に発揮しながら、産学官民が一体となって、未来志向の新しい産業やスタートアップ企業の創出や集積を目指します。

また、市内企業のDXを推進し、AIの活用などによる「生産性向上」や「高付加価値化」の取組を後押しし、誰もがチャレンジできる環境づくりにも取り組めます。

こうして、若者や女性、高齢者や障害のある人、また外国籍の人など、自らの夢に挑戦する意欲ある人々が集い活躍し、多様な個性が調和することで、強い経済を実現し、活力あふれる「稼げるまち」を目指します。

(2)「彩りあるまち」の実現

年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、自らの目標に向かって挑戦する人々が集まり、社会に参加し活躍することにより、まちに活力とにぎわいが生まれます。

それにより、人々の生活は豊かになり、消費意欲が高まります。

こうした人々の、ゆとりある、心豊かな生活に対する多様なニーズに応えるため、民間投資なども活用して、自然と調和した生活環境やまちの空間整備に取り組めます。

また、子ども一人ひとりの個性や多様性が尊重され、持てる可能性を發揮できる教育の推進や、生活を健康で心豊かにする文化芸術・スポーツの振興、そして、豊かな自然と歴史を生かした観光資源の磨き上げなどにより、魅力あふれるまちづくりを進めます。

自分らしさを大切にできる多様な選択肢をつくっていくことで、住む人々のまちへの愛着が深まり、また、感性豊かでクリエイティブな人たちなどをひきつけ、輝く個性が調和する「彩りあるまち」を目指します。

(3)「安らぐまち」の実現

「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現により、多様な人々が集い、暮らすとき、最も基本的で大切なことは、誰もが日々の暮らしに安心と安らぎが感じられるまちづくりです。

そのため、子育てや保健・医療・介護・福祉などの分野において質の高いサービスが提供されるよう、そして、防災や防犯などの分野では行政と民間、地域が一体となって市民の生命・財産を守る仕組みづくりに取り組めます。

また、人々の生活を支える道路や水道、都市の規模に適したコンパクトで質の高い公共施設などの都市基盤を維持していきます。

こうした安心と安全を基礎として、年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、誰もが人と人とのつながりの中で、お互いを尊重し合い、それぞれが望む生活や夢の実現に向けて一歩先に進むために、温かく支え合う「安らぐまち」を目指します。